

くらし部会

構成

- ① くらし部会の活動方針とワーキング活動
- ② 平成27年度の問題提起後の活動
- ③ 問題提起
 - ・深刻化している障害福祉現場における人材の確保と育成の諸問題
- ④ 提言
 - ・持続可能で質の高いサービス提供体制を目指して

くらし部会の活動方針

- ・「明石市第4次障害者計画」における優先課題（P11～17、P24～30参照）の解決をめざし、『住み慣れた街での暮らしをいかに保障していくか』をスローガンとして、ワーキング活動を中心に具体的な活動を進める

ワーキング活動

- ・ 現在5つのワーキングを設置（資料
- ・ それぞれのワーキングは、くらし部会の方針を踏まえ、「明石市第4次障害者計画」の優先課題の解決を目指して具体的な活動を行っている

3

平成27年度の問題提起（要旨）

問題提起

課 題

本人、そして介護を担う家族の高齢化等が進むにつれ、「住まいの場の確保」や「居住の支援」の在り方が大きな課題として表面化してきている。

部会の 意見

グループホームは、基本的に入居期限が無く、終の棲家として利用できる安心感がある。また、じっくりと時間をかけて、単身生活への移行に向けた訓練に取り組むことができる柔軟さを合わせて持っている。
このような理由から、グループホームは障害のある人が住み慣れた街でいきいきと暮らし続けるために地域に必要な社会資源であり、更なる拡充が必要であると考えます。

4

前年度報告の後の動き

グループホーム職員へのアンケート調査(平成27年7月)

・明石市及び近隣のグループホーム(8法人)の従事者52名より回答

グループホームの運営に関する意向調査(平成27年11月)

・明石市に事業所を置く、就労(日中)支援事業所、居宅介護事業所53事業所より回答

フォーラムの開催(平成28年2月 ※80名強が参加)

・グループホーム入居者が体験談を発表
・2つのアンケート結果を公表

・グループホームに焦点を当てたワーキング活動は、「グループホームの有効性や実態を周知する」といった目的をフォーラムの開催によって達成したことから終結

・平成28年度からは、グループホームも含めた居住系サービス(入所施設・宿泊型自立訓練施設)のワーキング「(新)すまいの会」を新設して活動を開始

5

(新)すまいの会

設置目的(優先課題)

2-1 地域生活を支えるために必要なサービスの確保・充実

(4)住まいの場の確保、居住の支援

・家族の高齢化により在宅では必要な支援が得られない、家族から独立して生活したいなど、障害のある人のそれぞれのニーズに即した地域生活を支援していくため、グループホーム等の「住まいの場」の充実を図ります。

(8)サービス事業所への支援

・障害のある人への支援に関する専門的技術を習得するための研修の実施を支援します。

具体的活動

・定例会の企画運営
・施設入所支援、共同生活援助、宿泊型自立訓練等の居住系サービスの提供を通じて得られた課題の抽出と意見集約

ワーキングメンバー

担当委員

大地の家

宮崎 泰生

博由園

満吉 雄作

コアメンバー

みどり寮

松尾 亜矢

やまゆりの家

萩原 智子

おりーむ21

藤澤 和昭

レインボーハウス

内藤 幸雄

関西青少年サナトリウム

河石 洋美

こぐまホーム

溶田 洋子

あーちほーむ

米 和利

マックナイトホーム

中村 健

6

「深刻化している障害福祉現場における人材の確保と育成の諸問題」

- 今回は、在宅介護、通所施設、入所施設、グループホームにおける共通課題である「人材確保と人材育成の諸問題」に焦点をあてて報告する。
- 「人材育成」については、くらし部会下の各ワーキングにおいて、質の向上を目的とした研修機会を継続して提供しており、今後も明石市の形となるよう継続して企画・実施していきたいと考えている。
- 一方で、「人材不足」については、単独の事業所やくらし部会だけでは対応が困難な課題である。また、緊急性・重要性も高く、市全体で考えていくべきテーマと考えている。

進行性の筋疾患のため、日常生活のほぼ全てに 介助者が必要なある利用者の事例



- ・ 地域で生活をしていくためには、重度訪問介護（ヘルパー）のサービスを365日休まず利用しなければいけない
- ・ 最近、明石市内はもちろん、隣接市町の事業者においても、早朝や夜間帯に派遣できるヘルパーの確保が困難になりつつある
- ・ 本人は、地域で生活していくために必要なサービスが受けられなくなることを不安に思っている
- ・ 「ヘルパーの確保」という問題は簡単に解決できず、結局、我慢させられるのは、いつも「本人」である
- ・ 地域で生活していくために必要なサービスを確保できないなら、選択肢は入所施設？しかし、入所施設はどこも満床である
- ・ 何よりも、本人は家で暮らし続けることを希望している

9

具体的なエピソード

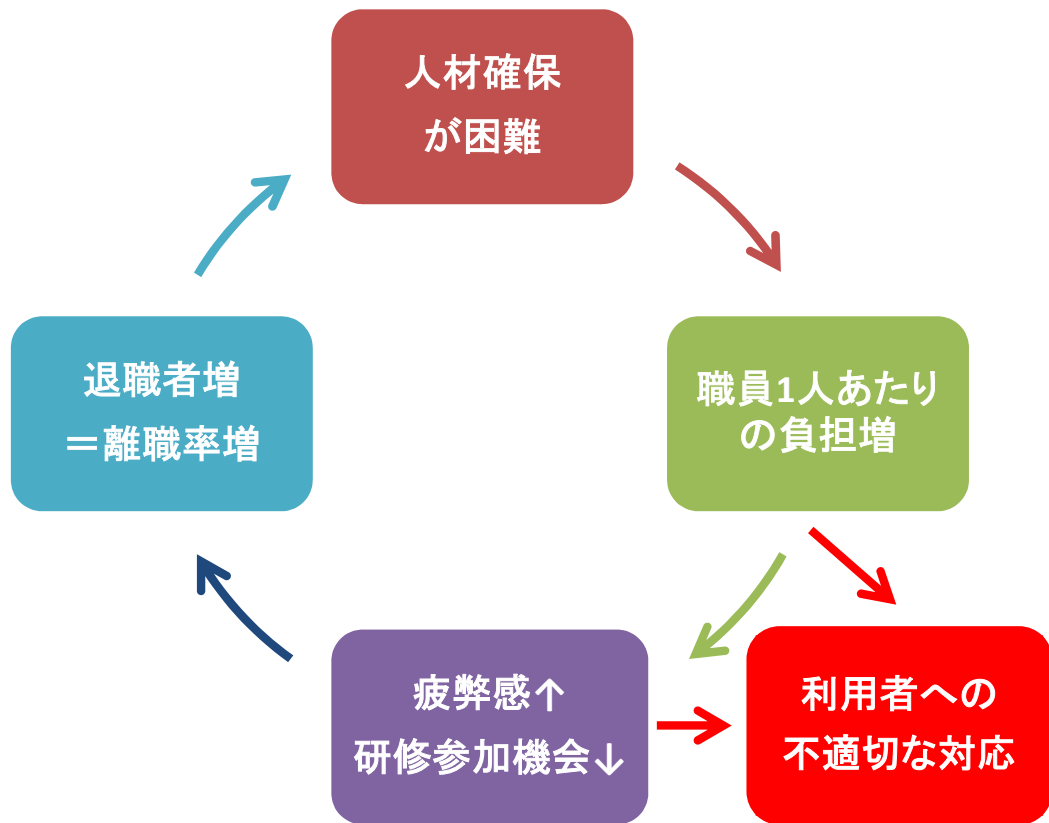
利用者ニーズ

支援側の提供余力

- ・ 特に土日、早朝や夜間は派遣できるヘルパーがおらず業務が遅延したり、サービス提供ができないのが現状。若手が入ってこないため、今いる高齢化したヘルパーで対応しているが限界である
- ・ 生活介護事業所では、入浴介助や医療的ケア等のニーズに対しても、職員の人員体制が整わず、希望に応じることができない
- ・ 強度行動障害のある方など、マンツーマン対応が必要な方から利用希望があっても対応できる職員がいないため、受け入れができない
- ・ 日々の対応をする職員が不足している現状では、研修に行かせることができず、支援の質は低下する一方である
- ・ ベテランが新人に教えるが、仕事を覚えた頃に離職するケースが多い。結果、一部の職員が疲弊し、支援の質が一定に保てない
- ・ 一部または特定の職員の過重労働に頼っているのが現状である
- ・ 入所施設等は定員一杯という現状で、在宅サービスの需要は増える一方であるが、人を確保できないため利用者ニーズに応じた事業展開ができない

10

障害福祉現場の状況



11

人材に関する緊急アンケート結果

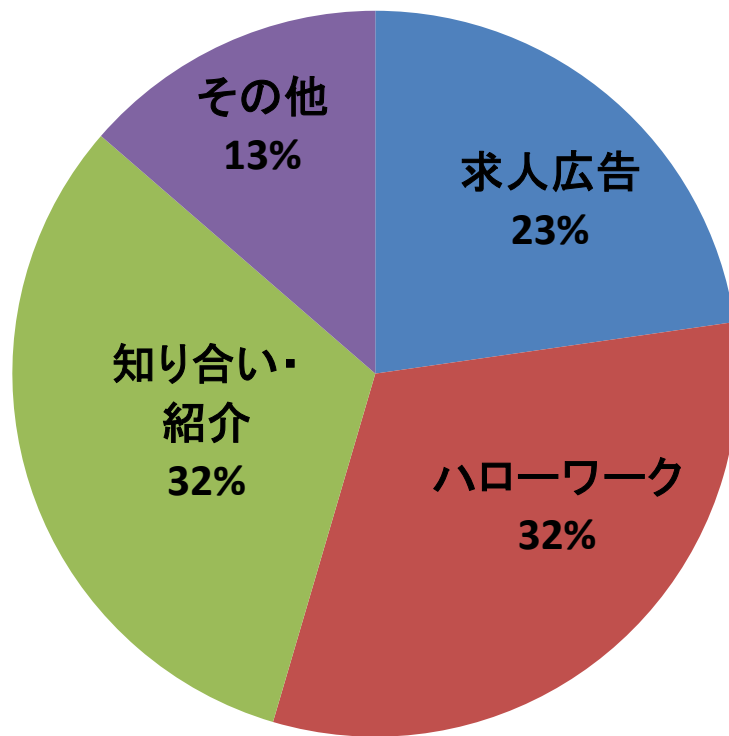
H28年8月実施

くらし部会
ワーキング加盟事業所対象

- 人材募集の方法
- 人材募集の結果
- 確保できない人材の対応方法
- 人材が確保できないと思う理由
- 障害福祉の仕事をより多くの人に注目してもらい、人材を確保するにはどのような手立てが必要か？

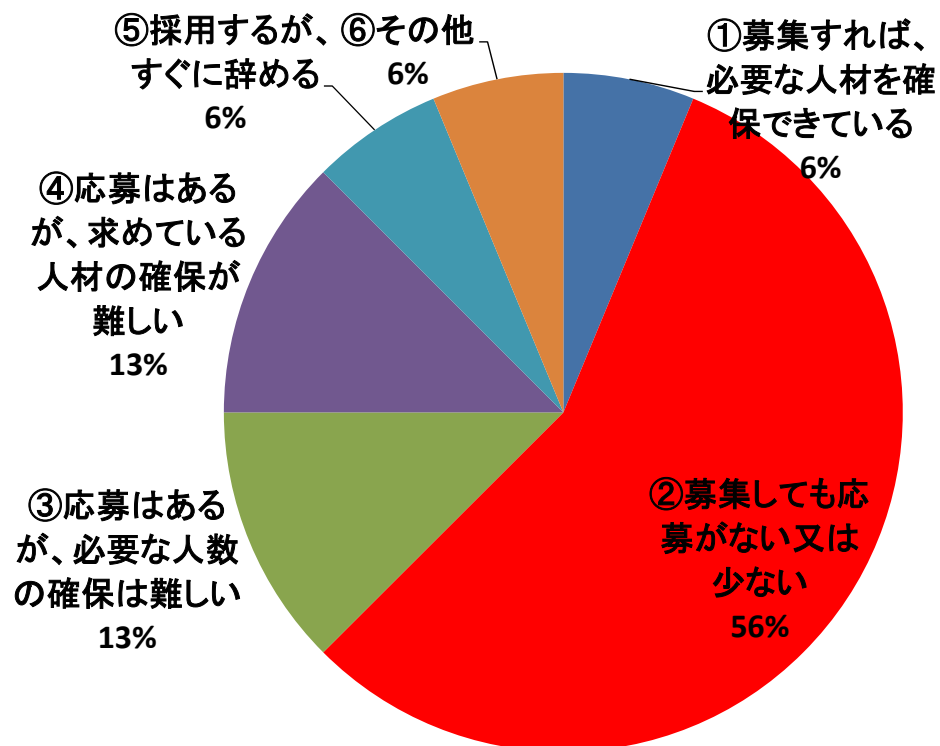
12

人材募集の方法



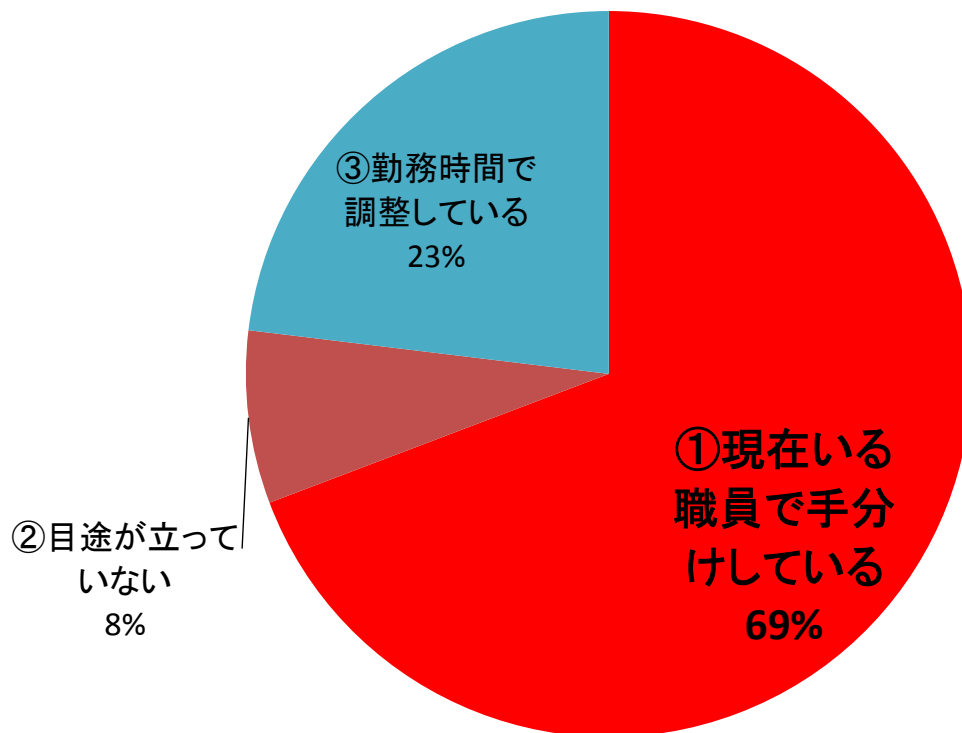
13

人材募集の結果



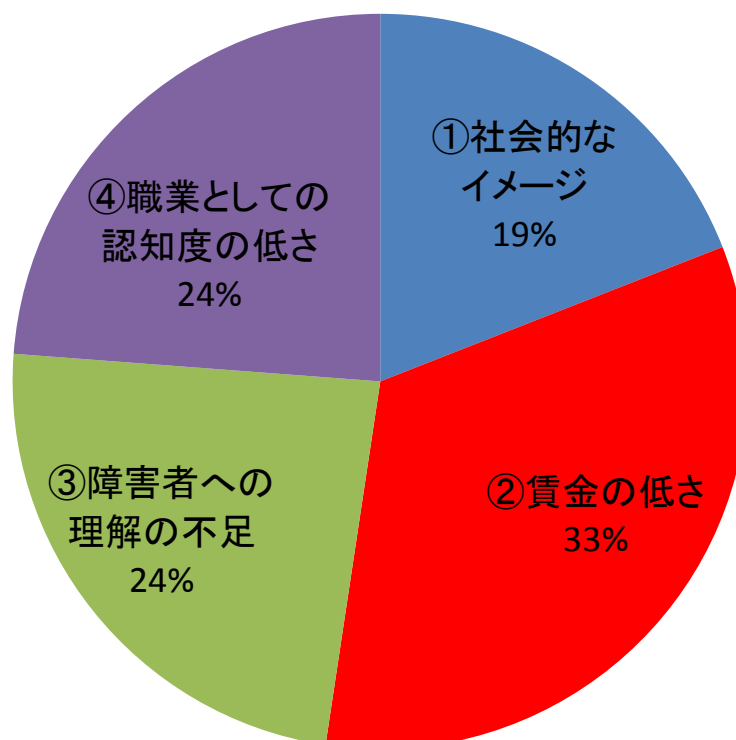
14

確保できない人材の対応方法



15

人材確保ができないと思う理由



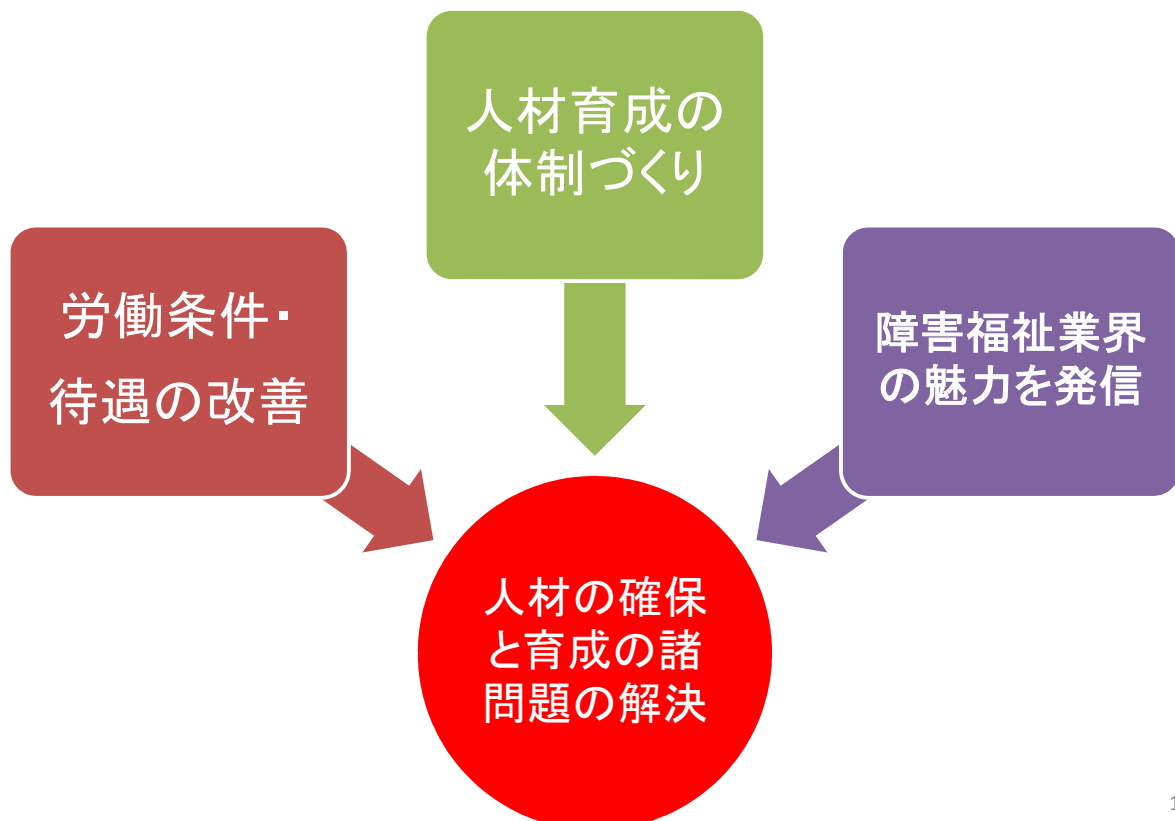
16

障害福祉の仕事をより多くの人に注目してもらい、 人材を確保するにはどのような手立てが必要か？

- 具体的な仕事内容や事例を知ってもらう
- まだまだ福祉は特別なものという意識が強いので、交流等を通して身近なものとして理解を深めることが大切
- 福祉職の技術の向上・ブランド化が必要。また高い技術には当然それに見合った報酬が必要
- 例えばボランティア活動やトライアルウィーク、企業研修等に障害福祉の仕事を組み込んでもらう
- まず「障害福祉」について、「障害者」についての理解を深めてもらう取り組みが必要だと思う
- 学生の方々への教育の一つとして、障害について学ぶ機会を増やしていくことが長い目を見た人材確保に繋がっていくのではないかな
- 身体障害や高齢者に関する研修が多く、知的障害や精神障害について具体的に知ることが難しいのでは

17

問題提起のイメージ



18

「持続可能で質の高い サービス提供体制を目指して」

現場の思い

- 障害福祉の仕事を知る機会がなかったり、興味があっても踏み込めなかった人たちが居るはず！
- 障害福祉の仕事の面白さを知ってもらえるような取り組みが絶対に必要ではないか！
- 障害・保育・高齢など、マッチングを図る機関があってもいい！
- 福祉職に従事する職員に対する給与面の補助やそれに似た仕組みを作れないか！
- 明石市の障害福祉現場で働く支援者への基礎的な研修体制を構築したい！

くらし部会の提言

下記の3点を「明石市第5次障害者計画」と「明石市障害福祉計画（第5次）」へ実効性を持った行動目標として反映させるべきである

障害福祉業界の 魅力を発信

- 知る機会（福祉学習・福祉フェア）
- 体験する機会（中高生への実習機会の提供など）

人材育成の 体制づくり

- 学び続ける機会（基礎的な研修体系の構築など）
- 支援者同士が支え合う仕組み（自立支援協議会）

労働条件・ 待遇の改善

- 給与面の補助やそれに似た仕組みづくり

21

参考資料

参考) 2016年分 民間給与実態統計調査(国税庁)

区分	平均給与	対前年伸び率
(業種)	千円	%
建設業	4,602	2.1
製造業	4,876	2.5
卸売業, 小売業	3,541	▲1.6
宿泊業, 飲食サービス業	2,368	1.6
金融業, 保険業	6,095	▲1.2
不動産業, 物品賃貸業	4,156	2.3
電気・ガス・熱供給・水道業	6,554	▲5.8
運輸業, 郵便業	4,162	0.6
情報通信業	5,925	0.1
医療, 福祉(医療業、保健衛生、社会保険・社会福祉・介護事業)	3,791	▲2.1
学術研究, 専門・技術サービス業, 教育, 学習支援業	5,074	1.9
複合サービス事業	3,875	▲6.0
サービス業	3,415	0.7
農林水産・鉱業	2,899	0.4
合計	4,150	0.3

・医療・福祉業の年間平均給与が全産業平均より35万9000円低い379万1000円だったことが分かった
 ・医療・福祉業は前年より2.1%増えたが、平均給与は14大産業中で5番目に低かった。最も高いのは、電気・ガス・熱供給・水道業の655万4000円で、逆に最も低いのは宿泊・飲食サービス業の236万8000円だった²³

参考) 福祉人材確保に関する基本的な方針

- ・就職期の若年層から魅力ある仕事として評価・選択されるようにし、さらには従事者の定着の促進を図るための
「労働環境の整備の推進」
- ・今後、ますます増大する福祉・介護ニーズに的確に対応し、質の高いサービスを確保する観点から、従事者の資質の向上を図るための
「キャリアアップの仕組みの構築」
- ・国民が、福祉・介護サービスの仕事が今後の少子高齢社会を支える働きがいのある仕事であること等について理解し、福祉・介護サービス分野への国民の積極的な参入・参画が促進されるための
「福祉・介護サービスの周知・理解」
- ・介護福祉士や社会福祉士等の有資格者等を有効に活用するため、潜在的有資格者等の掘り起こし等を行うなどの
「潜在的有資格者等の参入の促進」
- ・福祉・介護サービス分野において、新たな人材として期待される、他分野で活躍している人材、高齢者等の
「多様な人材の参入・参画の促進」

参考) 福祉人材確保に関する兵庫県の取り組み

「福祉体験学習事業」

- 福祉・介護の仕事に就こうと考えておられる方に実際の職場の雰囲気やサービス内容等を直接知ってもらい、円滑な就労につなげるため、社会福祉施設、介護サービス事業所、障害福祉サービス事業所、保育所等で職場体験を行います

「キャリア形成訪問指導事業」

- 介護福祉士・看護師等の養成校や職能団体の教員・有資格者が申込のあった福祉・介護職場を訪れ、職員の介護・看護・相談援助等のスキルアップを図る出前講座を無料で実施します

「介護福祉士試験の実務者研修にかかる代替職員の確保事業」

- 介護福祉士試験の受験資格要件となる実務者研修(読み替え可能な研修を含む)の受講を促進するため、福祉・介護事業所の職員が受講する際に必要となる代替職員の確保に係る経費を補助します

「職場研修の実施の支援を行います」(県社協 社会福祉研修所)

- 専門のアドバイザーを施設や事業所に派遣します。職員の成長と組織の発展の双方を目指す職場研修を実現するためのお手伝いをします

福祉の就職説明会を開催します

- 福祉職場への就労を希望する学生や一般求職者の就職活動を支援するとともに、社会福祉施設等の福祉人材の確保を図ることを目的として、「福祉の就職説明会」を開催いたします

WG	設置目的	具体的活動
ハートふるあかし	3-4 精神保健医療や難病対策の充実(35ページ) ・精神障害のある人に対するサービスの充実を図り、退院促進や地域移行支援、地域定着支援、就労支援など医療的ケアと福祉的ケアの両面において支援の充実を図ります。 ・心の健康づくりに関する理解が市民に深まるよう、広報・啓発に努めます。 2-1 地域生活を支えるために必要なサービスの確保・充実(26ページ) (8)サービス事業所への支援・障害のある人への支援に関する専門的技術を習得するための研修の実施を支援します。	・障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修の企画運営 ・市民向けの啓発講演会等の企画運営 ・精神障害のある人への相談支援業務等を通じて得られた課題の抽出と意見集約
相談支援連絡会	2-2 相談・マネジメント体制の充実(28ページ) (1)相談体制の充実 ・相談者の課題に的確に対応できるよう、相談支援に必要な専門知識や技術を有する人材の確保・育成に努めます。 (2)相談支援事業の充実 ・地域の相談支援事業者との連絡調整を強化し、相談支援の充実を図ります。	・相談支援連絡会の企画運営
ヘルパースタッフ	2-1 地域生活を支えるために必要なサービスの確保・充実(25ページ) (1)居宅介護等の訪問系サービスの充実 ・障害のある人の安定した在宅生活を支援するため、居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護などの訪問系サービスの充実を図ります。 2-1 地域生活を支えるために必要なサービスの確保・充実(26ページ) (8)サービス事業所への支援 ・障害のある人への支援に関する専門的技術を習得するための研修の実施を支援します。	・定例会の企画運営 ・介護技術リスキミング・研修の開催 ・居宅介護(身体介護・家事援助・通院等介助)、重度訪問介護、同行援護、行動援護、移動支援のサービス提供を通じて得られた課題の抽出と意見集約
生活介護事業者連絡会	2-1 地域生活を支えるために必要なサービスの確保・充実(25ページ) (3)日中活動の場の確保と支援 ・障害のある人が日中活動を利用して地域での社会参加ができるよう、様々なニーズに応じた日中活動の場の拡充を図ります。特に医療的ケアや常時介護が必要な重度障害のある人及びその家族が安心して生活できるよう、支援の充実を図ります。 2-1 地域生活を支えるために必要なサービスの確保・充実(26ページ) (8)サービス事業所への支援 ・障害のある人への支援に関する専門的技術を習得するための研修の実施を支援します。	・定例会の企画運営 ・生活介護のサービス提供を通じて得られた課題の抽出と意見集約
すまいの会	2-1 地域生活を支えるために必要なサービスの確保・充実(25ページ) (4)住まいの場の確保・居住の支援 ・家族の高齢化により在宅では必要な支援が得られない、家族から独立して生活したいなど、障害のある人のそれぞれのニーズに即した地域生活を支援してため、グループホーム等の「住まいの場」の充実を図ります。 2-1 地域生活を支えるために必要なサービスの確保・充実(26ページ) (8)サービス事業所への支援 ・障害のある人への支援に関する専門的技術を習得するための研修の実施を支援します。	・定例会の企画運営 ・施設入所支援、共同生活援助、宿泊型自立訓練等の居住系サービスの提供を通じて得られた課題の抽出と意見集約

独自の給与補助 ■ 施設見学ツアー

保育士県内市町が争奪戦

新設相次ぎ 人材不足深刻

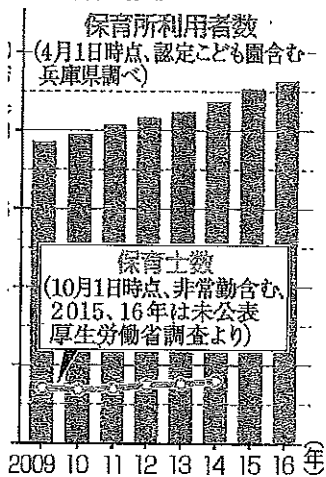
待機児童の解消に向け、各地で保育園新設が相次ぐ中、兵庫県内の自治体間で保育士の争奪戦が激化している。県内41市町で今年4月時点の待機児童数が295人と最も多い明石市では、9月1日に開園した民間認可保育園が保育士不足で定員を4分の1以下に減らす事態に。明石をはじめ同じ通勤圏にある自治体は、低いとされる賃金の独自補助などに乗り出し、「わが町の保育士に」と訴えている。

(広畑千春)



明石市で開かれた保育園の見学ツアーで、参加者に説明をする保育園の職員(左)=8月、同市新西町1

兵庫県の保育所利用者数と保育士数の推移



34歳男性「家族養えない」

で12年間正社員として勤め、とは明石市の新聞歩、惟さん。当時の給与は手取りで月約15万円。賞与はおろか社会保険や交通費の支給もなかった。交際女性との結婚も考えたが、貯金もままならず、次第に疎遠になった。大学の学科は女子80人に、男子は8人いたが保育園に就職したのは2人だけ。「やりがいはあるけど、なかなか家族を養える仕事ではない」と話す。

明石市で認定こども園を運営する神尾由美さんは「男性の働き方も見直すなど、働くお母さん保育士を支える仕組みを社会全体で整えてほしい」と訴えている。

低賃金、過密労働で敬遠

国や自治体は待機児童対策を強化するが、現場で働く保育士からは、給与の低さや正規職員の過密労働を指摘する声が続々。給料の話をしているのが嫌だった。明石市内の認定こども園で働く保育士元岡知玄さん(34)は宝塚市に大学卒業後、認可外保育園に必要になる。だが、国が定める保は2年間30万円、神戸市や阪神間の自治体は来春までに、分園や増築を含め保育園や認定こども園など21カ所を拡充する予定で、保育士約190人が新たに必要になる。

「上(限月1万円)を補助。最大月2万円のアップが見込め、「格差を解消できる」と力を込める。さらに県内で初めて、新卒保育士に賃金が比較的高い神戸市や阪神間の自治体などの支援策を開始。姫路市は市内の専門学校との連携を強め、地元学生の学生や潜在保育士の囲い込みを図る。

「一方、自治体による賃金補助は、いつまでも続くか分からないという指摘もある。全国保育団体連絡会保育研究所(東京都)の村山祐一所長は「自治体の支援には限界がある。運営の基になる国の補助金の額や保育士の配置基準などが社会の実情に合っていない、抜本的な改善が不可欠だ」と話している。

リクルーム

保育園の運営は、保育士の給与の水準は県内は、東高西低だ。芦屋市が最も高く、阪神地域や神戸市が続いており、「人材が東に流れている」と明石市待機児童緊急対策室。そこで、同市は来春1月から、法人に賃金増額分の半額(上限月1万円)を補助。最大月2万円のアップが見込め、「格差を解消できる」と力を込める。さらに県内で初めて、新卒保育士に賃金が比較的高い神戸市や阪神間の自治体などの支援策を開始。姫路市は市内の専門学校との連携を強め、地元学生の学生や潜在保育士の囲い込みを図る。

民間保育所と認定こども園がブースを
説明をする「就職フェア in 明石」が
キャッスルプラザ(松の内2)で開かれ

た。20事業所が出展、保育士資格のある人(潜在保
育士)や来春取得見込みの学生など訪れた約100人
に仕事内容や待遇について説明した。(片岡達美)

保育所、認定こども園 20事業所

保育士確保へ就職フェア

学生ら100人 業務内容や待遇確認

同市は来年4月時点
での待機児童ゼロを目
指し、保育所の定員を
千人増やす目標を掲げ
ている。8、9月には
見学バスツアーを行
い、現場で職員と懇談
するなど、保育士確保
求職者と事業者のより
つには優秀な人材の確

保が欠かせない。その
待遇改善を図るなど、
ため、民間の事業所も
「努力している」と明石

保育協会会長の三木則
夫さん。「都市間で保
育士確保のため競争が
激しくなっている」と
いい「市とも協力し、
安心して子どもを預け
られる環境整備を進め
たい」と現状を説明し
た。

出産・育児のため保
ば」と話していた。

育士の仕事を一時中断
している魚住町清水の
主婦(37)は「給与だけ
でなく有休取得や残業
の有無など、細かな待
遇面も確認したい。保
育士はやりがいのある
仕事。ぜひ、地元でキ
ャリアを再開できれ



質疑応答が行われたフェア会場＝松の内2